

郷土の偉人を紹介するために、平成26年阿南市文化協会から「阿南市の先覚者たち第1・2集」が刊行されました。
阿南市の発展に尽力された人たちの偉業を顕彰し、後世に語り継ぐために、27人の先覚者たちを奇数月に掲載して紹介します。

郷土史研究家

島田 麻寿吉

島田麻寿吉（泉山）の現代的な存在意識は、古い伝承にとらわれることなく、歴史的なことがらについて事実に基づいて論証するという立場を貫いている点である。このために、現代の研究者にとっても納得のいく論理を展開しているところに感心させられると同時に、心からうなずけるものがある。
島田は、明治7年（1874）6月24日、那賀郡長生村本庄（現長生町本庄）の島田延吉の長男として生まれた。本名は麻寿吉。のちに泉山と号した。小学校高等科を終えると、漢詩漢文を郷土の学者・天羽生信成（号・岐城）に学

び、佐藤忠右衛門に貫心流の剣術（剣道）を学び、免許皆伝を許された。
明治30年に志を立てて、東京に出て二松学舎に入學し、三島中洲（二松学舎創立者）に師事した。同32年に帰郷すると自家の農業経営に努力する。

家業の一方、郷土史の研究にも打ち込み、漢文の知識を生かして、多くの漢籍（漢文資料）を読み、諸論文にまとめ発表した。そのうち中世史の研究には、独自の学説を打ち立て、昭和7年（1932）泉山会から刊行された「徳島市郷土史論」は、泉山の研究の集大成として評価されている。

著書として発表されたものとしては、大正5年発刊の「八杵神社と長国造」をはじめ、「長慶天皇御陵の研究」「阿波に隠れたる建武の忠臣岩松経家」等がある。ほかに「阿波荘園考」「阿波国守護伝」など未刊の研究成果も多い。整理の上での刊行が待たれる内容を秘めている。

生前には、郷土史のみにこだわ

ることなく、日本考古学会、日本歴史地理学会の会員としても、全国規模での研究と郷土史との連携も視野に入れていたようであった。
なお、泉山が目した八杵神社（長生町宮内）は、数多くの国指定や県指定の文化財を所有している。一例を挙げると「木造大己貴命立像一躯（国指定重要文化財）」などである。生まれた地域においてこのような貴重な文化財が存在していたことが、泉山の研究活動に大きく影響したことは否定できない。

没後、蔵書3000冊が「島田文庫」と名付けられ現在の徳島大学附属図書館に移管された。
泉山は現代人として合理的、実証的に、極めて明確に実例を示しながら論証している。従って自説を論証する上においても自説と引用とを厳しく峻別している。

昭和22年2月18日没、享年74。

次回5月号は、装飾古墳模写の先駆者 日下八光氏を紹介します。

問い合わせ 文化振興課 ☎ 22-1798



八杵神社所蔵 国指定有形文化財 「二品家政所蔵紺紙金泥法華経序品」絵



大正5年発刊「島田泉山著 八杵神社と長国造」の扉